

Helix CoreサーバのSSL証明書に期限の設定はできますか？

質問

Helix CoreサーバのSSL証明書の作成時に期限を変更することはできますか？

回答

証明書とキーのペアを作成する(p4d -Gc)際、任意の期限を設定したconfig.txtファイルを使用することで期限を変更することができます。

※デフォルトで設定される証明書の期限は730日(2年)です。

手順

config.txtの書き方と実行コマンドは以下の通りです。

1. "P4SSLDIR"ディレクトリの配下にSSL証明書の期限を設定した"config.txt"を作成します。
期限は"EX"と"UNITS"で指定します。

■ config.txtの作成例(デフォルト値)

```
C=US
ST=CA
L=Alameda
O=Helix Autogen Cert
OU=
CN=the-DNS-name-of-your-server
EX=730
UNITS=days
```

■ config.txtの書式

C = 国名-2文字のコード

ST = 州名または州名-フルネーム

L = 地域または都市名

O = 組織または会社名

OU = 組織単位-部門または単位

CN = 共通名 (通常はサーバのDNS名)

EX = 証明書の有効期限が切れる設定時からの数値

※[UNITS]の単位による

UNITS = 有効期限の単位乗数

(secs, mins, hours, daysから指定)

※ 設定可能な数値は以下の通りです

最小 : 1 (EXを1、UNITSにsecsを設定)

最大 : 2485 (EXを2485、UNITSにdaysを設定)

2. 証明書とキーのペアを生成します。

実行コマンド

p4d -Gc

既存のプライベートキーまたは証明書が見つからない場合、"privatekey.txt"と"certificate.txt"という2つのファイルが"P4SSLDIR"ディレクトリに作成されます。

3. サーバのキーと証明書のペアに対してフィンガープリントを生成します。
表示されるフィンガープリントを控えておき、ユーザに通知します。

実行コマンド：サーバのパブリックキーのフィンガープリントを表示

p4d -Gf

参照ページ

[「Helix Coreサーバ管理者ガイド」 - キーと証明書の生成](#)